

体位保持(ポジショニング)①仰臥位

1 患者の準備

患者の身体に装着・挿入されているルート類(点滴ライン、ドレーン、酸素チューブなど)の固定状況を確認し、ルート類にゆとりをもたせる



2 掛け物やクッション類を外し、ベッドを水平にする



1 ポジショニング(仰臥位)の実施

患者を側�卧位にし、背面の体圧がかかる部位の観察を行う

5 両上肢を軽く外に開き、肩関節の下(Ⓐ)、上腕・前腕の下(Ⓑ)に左右それぞれにクッションを置く(Ⓒ)



2 患者を仰臥位にし、衣類やシーツのしわを伸ばす。正面から見て脊柱が一直線になるよう整える

6 両膝を軽く曲げ、膝下に枕を挿入する



・膝関節は10~15度の屈曲を保持する

3 頭部の枕を、肩、頸部、頭部にかけて当たるよう位置を整える



4 背面に手を入れて、空間を確認し、身体とベッドの隙間をタオルや小枕などで埋める

7

下肢の外転・外旋を防ぐために、両膝間が5cmほど離れるくらい開脚し、大転子から大腿部に小枕などを当てる



・股関節は15度程度軽く外転させ、10~30度屈曲し、内旋・外旋中間位とする

8

足関節は0度に保つよう足底部に枕などを当てる



・足関節は0度背屈・底屈中間位とする

仰臥位のポジショニングの完成



体位保持(ポジショニング)②側臥位

1 側臥位

患者を側臥位にし衣類やシーツのしわを伸ばす

2 腰部を後方に少し引いて、半腹臥位をとる



3 両下肢の膝関節を軽く屈曲させる。上側の下肢を前方にずらし股関節を90度ほど屈曲させ、枕に乗せる



4 肩関節を軽く屈曲させ、胸部前面に枕を挿入し、上側の上肢で抱えるようにする



5

頭部の位置を直し、頭部から頸部をしっかりと支えられるよう枕を当てる



1

半側臥位(30度側臥位)

患者を側臥位にし、衣類やシーツのしわを伸ばす

2

背部から臀部にかけ枕を挿入する



4

上側の下肢を枕に乗せる



上側の下肢の下に

4

下側の下肢は膝関節を軽く屈曲させ、支持基底面を広くし、下に枕を挿入する



下側の下肢の下に



下肢に入れた2つの枕の位置関係

5

下側の肩が圧迫されないようやや屈曲させ調整する。両上肢の肘関節は軽く屈曲させる

6

頭部の位置を直し、頭部から頸部をしっかりと支えられるよう枕を当てる



半側臥位のポジショニング

体位保持(ポジショニング)③腹臥位

1 腹臥位

患者を側臥位にし衣類やシーツのしわを伸ばす

2 患者を腹臥位にし、顔は楽に呼吸ができるよう横に向ける 注意 鼻や口を塞いで窒息しないようにする

3 顔の下に枕を入れる



4 両上肢を頭側へ挙上させる



5 肩から前胸部にかけ小枕を入れる



注意 胸部が圧迫されることで、呼吸運動が妨げられる場合もあるため、呼吸状態の変化を注意深く観察する

6 腸骨部が浮くように腹部の下に小枕などを挿入する



7 両膝を軽く屈曲し、下腿および足関節の下側に枕などを挿入する



腹臥位のポジショニング

1 ポジショニング実施後の状態の確認

(ポジショニング①～③共通)
衣類およびシーツ類のしわを十分に伸ばし、掛け物、衣類を整える

2 患者に安楽であるか、苦痛を感じる箇所や部位はないか確認するとともに、患者の状態に変化がないことも確認する

3 患者の身体に装着・挿入されているルート類(点滴ライン、ドレーン、酸素チューブなど)の固定状況を確認し、整える

4 ナースコールを患者の手が届く所に置く。ベッド周囲の環境も整える

温罨法

1 準備(湯たんぽの場合)

- ピッチャーに湯(金属製・プラスチック製は70~80°C、ゴム製は60°C程度)を用意する

- 直接皮膚に当たることによる熱傷を予防するためカバーなどをつける



2 湯たんぽに適切な量の湯を注ぎ入れ、栓をしっかり閉める

- ゴム製の場合: 2/3~4/5程度の容量まで湯を入れた後、湯たんぽ内の空気を抜き、栓を閉める
- プラスチック製の場合: 口元まで湯を入れる

- 電気あんか、電気毛布の場合
 - 電源が入ることを確認し、専用カバーで包む
 - 直接皮膚に当たることによる熱傷を予防するためカバーなどをつける

- 貼用時、バスタオルの表面が適温であることを確認する
 - タオルの表面温度が43~45°Cであるよう調整する。看護師の前腕内側などの温度感覚が敏感な部分で温度を確認する

3 本体に付着している水分を拭き取り、湯漏れがないことを確認する



1 温罨法の実施(湯たんぽ・電気あんかの場合)

- 患者の身体から10cm程度離して置き、掛け物を整える



注意 湯が漏れる危険性を考慮し、注湯口を上向きに置き、カバー口は患者側に向けない

- ホットパックを貼用部位に当て、上部をビニールなどで覆う



腰部に貼用する



腹部に貼用する

4 湯たんぽカバーに入れる



- 熱傷の発生を予防するためにも、厚手のカバーをかける

2 不快(高温、湯漏れなど)を感じた時は、すぐに知らせるよう説明する

- 衣類を整え、掛け物(バスタオル、毛布など)をかける

- 20~30分後、ホットパックを外し、皮膚の状態を観察する
 - 熱傷を防ぐため、貼用開始5~8分後、貼用部位の感覚を確認する

1 準備(ホットパックの場合)

- ホットパックを保温庫や電子レンジで温め、バスタオルで包む

1 温罨法の実施(ホットパックの場合)

- 衣類をゆるめ、貼用部位となる皮膚を露出させ、皮膚の状態(発赤、皮膚損傷、脆弱性、知覚障害など)を観察する

- 発汗している場合はタオルで拭き取り、衣類を整える

冷罨法

1 準備(氷枕の場合)

氷を用意する

- ・氷が大きい場合は、碎氷器などで割り、流水をかけて氷の角をとる



2 氷枕に適切な量の氷と水を入れる

- ・氷の容量は本体の1/2～2/3までとする



- ・水を約200mL入れることで、氷の隙間を埋め、使用時に氷の角が当たるなどの不快感を解消する



3 氷枕を平らに置いて空気を抜き、留め具をしっかりと掛ける



- ・留め具はストッパー部分が上部になるよう掛ける。留め具が2つ使用できる場合、交互に掛ける

4 本体に付着した水分を拭き取り、漏れないことを確認する

5 氷枕にカバーをする

4 本体に付着した水分を拭き取り、漏れないことを確認する

5 カバーをする

1 冷罨法の実施(氷枕の場合)

枕を外し、氷枕の中央に後頭部が当たるように置く



1 準備(氷嚢、氷頸の場合)

氷を用意する

- ・小さめの氷(1cm程度)を用意する

2 氷嚢、氷頸に氷と水を入れる

- ・氷の容量は、氷嚢はこぶし大、氷頸はその1/2程度とし、氷の隙間を埋め、皮膚との接触面をなめらかにするため水を少量入れる



氷の容量の目安(こぶし大)

2 不快(冷たすぎる、水漏れなど)を感じた時は、すぐに知らせよう説明する

1 冷罨法の実施(氷嚢、氷頸の場合)

冷却部位に氷嚢を当てる



腋窩への貼用

3 平らな所に置いて空気を抜き、留め具をしっかりと掛ける



2 不快(冷たすぎる、しびれなど)を感じた時は、すぐに知らせよう説明する